

## 大腸がんの早期発見のために 大腸がん検診のすすめ



徳島大学病院  
消化器内科講師

おか ひさとしや

岡久稔也氏

大腸がんは、日本  
人女性のがん死亡

原因の一位であり、二〇一五年までに男女合わせたがん罹患数の一位になると予測されています。一般に、根治可能な大腸がんでは自覚症状がありません。そこで、無症状のがんを発見するために大腸がん検診が重要となります。

しかし、徳島県の大腸がん検診受診率は、三年ごとの全国調査で二回連続最下位です。大腸がん検診は、問診と便潜血検査によって行われ、簡単に受けられます。早期大腸がんの約五十パーセント、進行大腸がんの約九十パーセントで便潜血反応が陽性です。内視鏡治療や手術によって根治できる大腸がんを発見するために、四十歳を過ぎたら年に一回は大腸がん検診を受けましょう。



 徳島大学病院がん診療連携センター  
お問い合わせ がん診療連携センター: Tel.088-633-7312

徳島がん対策センター  
お問い合わせ 相談窓口: Tel.088-633-9438